

経済金融環境の変化と間接金融から直接金融への潮流と 2040 年に向けた今後の課題

東京大学 柳川範之

・「間接金融」から「直接金融」への潮流

- 銀行貸出を中心としたシステムからの変化
- 「間接金融」という呼び方がどこまで適切だったのか
- 「メインバンク」主体の資金の流れに対する評価
 - 経済環境変化との関連
 - F.アレンの議論
 - 不良債権処理・銀行出資の制限

・「市場型間接金融」に関する議論

- 「直接金融」に関する評価
 - 情報が限られている中での直接金融
 - 一般投資家に対するエージェント機能の必要性
- 銀行がもっとマーケット活動をするという側面
- 「直接」ではなく、株式市場に一般投資家が参加する資産運用を任せるという側面
 - 小口分散が可能に
 - プロによる投資

・2040 年に向けた今後の課題

- 個人投資家の「情報の限界」を踏まえたビジネスモデル
- グローバル化された市場にどう向き合うか
 - グローバルマーケットへのアクセスの確保
 - どれだけグローバルな資金を日本に集めるか
 - 安全保障上の対処をどこまで考えるか
- 多様な金融商品の取り扱い
 - 個人レベルでの情報や知識とどう折り合いをつけるか
- 新たな技術の可能性
 - 暗号資産・ステーブルコイン・STOなどをどう取り扱うか
 - 高頻度取引や AI による自動執行の可能性
 - 市場の安定性と信頼性をどう確保するか